

令和 6 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 社会に貢献する共創力をみがく（主体性・寛容性・探究心を養い共にによりよく生きる力を育む）
- 国際社会の様々な人や組織と共に活躍できるよう、多様な国際交流プログラムを提供し、英語力の向上と国際理解の習得に取り組むと同時に社会の課題を発見し解決できる人材を育てる学校。
 - 子どもたちの多様な才能を共に見つけ、更に伸ばし、それが生かせる未来を創造できる多様性のある教育システムを提供する学校。
 - 常により先進的な教育プログラムと学校運営のスタイルを提供できる学校として、府民とその子どもたちの信託に応える学校。

2 中期的目標

1. 学力向上

- 基礎学力の定着と向上を全教員の目標とし、授業改善に取り組み、更なる授業力向上に努める。
- 学習・学校行事・部活動・家庭生活時間のバランスを考え、自己の時間管理をすることで、授業外での学習時間数を向上させる。
- 各自がめざすべき進路に合わせ、計画的に学力の定着と個性の伸長を図る。
- ICT の活用などにより、コロナ禍においても学習を途切れさせることなく、着実に教育が届く環境を整える。
- 学校教育自己診断を活用し、全教員の授業力の分析を行う。
- 中学ならびに高校 1・2 年生の英語において習熟度別授業を行う。

※教育産業が提供する外部評価基準（GTZ）において令和 8 年度には CD ゾーンを 10%以下にする。（R 4：8%、R 5：6%、R 6：6%）
※授業満足度調査において令和 8 年度には 80%以上の肯定的な回答を獲得する。（R 4：80.1%、R 5:82.7%、R 6：94.1%）

2. IB ワールドスクールとして高校に繋がる IB 教育・探究学習を推進する

- 「総合的な学習の時間」で全生徒に対し探究学習「クリエイティブラーニング」を実施し、論理的思考力及び批判的思考力を育成する。
- 中学校から「IB の学習者像」を授業や HR の中で取り上げ、IB に対する関心を高めていく。
- IB 教員が国際バカロレア（IB）コース以外の授業を一部担当し、IB 教育の手法にて授業を展開する。
- 教員と IB のコアである ATL（Approaches to teaching and learning：学習のアプローチ）を研修にて確認し、生徒の学習態度を向上させる。
- IB 理解を深めるために中学生向けの IB 説明会を充実させる。
- 基礎学力、英語力の向上ならびに探究授業の充実、海外大学進学説明会を実施し、IB コースに進む生徒の育成を行う。

※外部評価基準の課題発見テスト標準レベルにおいて、中学卒業時に*B 1 レベル に達する生徒割合を令和 8 年度には 80%以上にする（R 4：43%、R 5：59%、R 6：82%）
*A 1→A 2→B 1 と数値が上がり、基礎段階の学習者から自立した学習者へと変化する。

3. 個性を見つけ、可能性を伸ばす

- キャリア教育を中学 1 年から段階的に進め、各自の個性、能力を認識させる機会を作る。
- 英語教育や国際理解教育の機会を充実し、英語への興味関心を高めると同時に、英語 4 技能 5 領域を総合的に学習し、発信力を向上させる。
- 運営管理者（学校法人大阪 YMCA）の多様な国際交流事業等を積極的に展開し、多様性を受け入れ、他国の人々と協働する態度を育成する。（コロナ後）
- 英語以外の教科や課外活動等で知識や技能を向上させる。進路実現に向けた実績となる活動（検定、コンテスト参加、ボランティア活動）を促進する。
- 外部講師を招いた各種講演会や研修会を開催し、生徒各自の興味の方向性を理解させ、自身の意見を述べる態度を育成する。
- 本校の教育の特色を大学入学後さらに伸ばしてもらえる中学校・高校・大学連続した教育の仕組みづくりに着手する。

※英語の CEFR 目標 <CEFR A 1＝英検 3 級、A 2＝英検準 2 級、B 1＝英検 2 級、B 2＝英検準 1 級>
中学 1 年時 CEFR 中学 2 年時 CEFR 中学卒業時 CEFR
A 1 100% A 1 100%／A 2 30% A 2 100%／B 1 10%

※令和 8 年度には全生徒が年 1 回以上の大会・コンテストに出場する。（R 4：全生徒の 8%、R 5：100%、R 6：100%）
※令和 8 年度には国際コンテスト・大会の出場者を年間 5 名以上出す。（R 4：0 名、R 5：7 名、R 6：4 名）
※令和 8 年度には海外研修旅行の実施を年に 2 回以上行う。またその参加者合計数 20 名以上とする。（R 4：0 回、R 5：1 回、R 6：2 回）
※令和 8 年度には外国からの教育旅行・インターンの受け入れを年間 30 名以上受け入れる。（R 5：54 名、R 6：80 名）
※令和 8 年度には交換留学（姉妹校）の提携を 3 校以上にする。（R 4：0 校 R 5：1 校、R 6：1 校）

4. 生徒・教職員が安心して生活できる環境づくりを行う

- 生徒主体による「生徒の行動規範（Suito Model）」づくりを通じて社会の一員として通用する責任感・基礎的スキルの土台作りを行う。
生徒一人ひとりの個性を大切にするとともに、自律した一人の社会人としての責任ある行動、思いやりのある行動を定着させる。
- 個別に支援が必要な生徒への対応については、校内の特別支援委員会を中心に、きめ細やかな運用を行う。
- 基本的な生活習慣を確立し、規律ある行動をとることのできる、社会性の豊かな生徒を育成する。
- 生徒会／GAPS（Global Action Project in Suito）活動を活性化し、学校行事やボランティアなどの体験的活動を充実させ、「生きる力」を育む。
- 新型コロナウイルス感染症に関しては「子どもの安心・安全の確保」「学びの保障」「人権尊重の教育の推進」「教職員の負担軽減」の 4 観点を踏まえ、長期的な対応に努める。
- 特に支援を要する生徒・保護者についてはカウンセラーを活用すると同時に「支援チーム」を立ち上げ、個別のケースに対応した教育・生活指導を行う。
- SUITO MODEL PROJECT（生徒の行動規範）の策定を行うにあたり下記の点を強く意識して指導する。
 - 希望をもって共に生きる社会の実現をめざした学校をつくる。（YMCA の基本理念）例）ボランティア精神をはぐくみ、互いに協力し、明るくあたたかい地域社会の形成に努める。
 - 未来へ責任ある行動をとるための態度とスキルを身につける。（IB の基本理念）
 - 社会が求める資質・能力を身につける。（経済産業省「社会人基礎力」）

- (8) 災害や事故に備えて、マニュアル整備や情報提供システムを整備し、実効性のある危機管理体制を確立する。
- (9) 学校教育自己診断を活用し、学校の教育力分析を行っていく。
- (10) LHR の特別授業を用い「いじめについて考える日」「YMCA の取り組むピンクシャツデー」「制服を通して LGBTQ を考える」人権意識を高める。
- (11) 生徒に対して SNS／ネット安全教育を 1 回実施し、情報リテラシーを高める。

※令和 8 年度には支援を要する生徒に対して「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成実施率を 100%にする。(R 4：100% R 5：100%)

※令和 8 年度には「自主的な活動が活発である」の肯定率を 90%以上にする。(R 4：94%、R 5：73.5%、R 6：94.2%)

5. 進路指導を強化する

- (1) キャリア教育を行うと同時に、自らの進路目標を立てさせることを通して学習意欲を高める。
- (2) 学習到達度を定期的に測定しながら、自己実現に向けた具体的な支援を行う。
- (3) 進路情報を積極的に活用し、進路選択を支援する。
- (4) 中学校・高校・大学 10 年連続した教育システム構築のための連携校確保に向けた活動を開始する。
- (5) 海外に姉妹校、連携校を確保し、海外進学志向の促進を図る。
- (6) 学校教育自己診断を用いて、学校の教育力分析を行っていく。
- (7) 職業体験インターンシップを実施する。

※令和 8 年度には進路指導研修会を年間 3 回以上行う。(R 4：0 回、R 5：3 回、R 6：3 回)

※令和 8 年度には海外大学進学説明会を年間 1 回以上行い、海外大学進学をめざす生徒の支援を行う。(R 4：3 回、R 5：2 回、R 6：3 回)

6. 校務整理と人材育成を図り、教育効果の高い学校運営を行う

- (1) 各学年・分掌の長の責任と権限委譲を促進する事により、効果的かつ迅速な学校運営を行う。
- (2) 若手や女性を積極的に登用し、管理職直轄で指導する事により、人材の育成を図る。
- (3) 学校評議会の提言を踏まえ、学校運営の改善を進める。
- (4) 役割と業務の明確化、責任分担により分かりやすく働きやすい職場環境づくりを進める。定時退勤率の計測を行う。
- (5) 校内に研修担当を置き、計画的に教員の資質向上策を講じる。
- (6) IB ワークショップへの参加、探究型の授業の強化のためファシリテーション研修やコーチング研修に参加する。
- (7) ICT 研修を行い、オンライン授業においてグループ討議や双方向の授業メソッドの充実を図る。

7. 開かれた学校づくりを行う

- (1) 学校説明会及びパンフレット等の広報媒体を充実させる。
- (2) 本校の教育方針・教育活動について、あらゆる機会・方法を活用して積極的に発信する。
- (3) 地域と連携し、「地域の教育拠点」としての機能を果たす。
- (4) 学校の特色ある教育活動について幅広く情報発信をすることにより、小・中学生を含む地域の方々の本校への理解を深める。
- (5) 校長と保護者が語る会を実施する。
- (6) 2025 年大阪・関西万博に向けて地域と連携し、世界に関わり地域に貢献する。
- (7) ネイティブ教員が各地域の学校へ、本校生徒が小学校の探究クラスへ、本校教諭が大学への講義へ出前授業を行う。

※令和 8 年度には地域（行政、大学、研究機関、企業、NPO 等）を巻き込んだ地域フォーラムを 20 団体以上の参加を得て開催する。(R 4：0 団体、R 5：23 団体、R 6：57)

※令和 8 年度には教員による出前授業を年間 3 回行う。(R 4：3 回、R 5：3 回、R 6：2 回)

※令和 8 年度には教育委員会と連携し、本校の特徴的な取組についての教育研修を年間 2 回以上開催し、特徴ある教育手法を広げる。(R 4：6 回 R 5：2 回、R 6：4 回)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校評議員からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 6 年 12 月実施分〕	学校評議員からの意見
回答率は、教師 85% (11/13)、生徒 93% (222/238)、保護者 41% (97/238) となった。生徒の回答率が大幅に向上している。結果について、「ややあてはまる」・「よくあてはまる」を肯定的、「あまりあてはまらない」・「まったくあてはまらない」を否定的とみなし、評価した。 教育活動・カリキュラムの面についての満足度は、教師 85%、保護者 85%、生徒 93%と昨年度より 10 p 程度向上した。ICT の活用については、生徒から 100%の肯定的な評価を得ており、昨年度 46%であった、教科間の相互の関わり合いについても、91%と大幅な改善が見られた。学校外のコミュニティとの関わりについては、肯定的な回答が生徒の 55%に留まった。 学校生活については、学校へ行くのが楽しいに対し、生徒 93%、保護者 92%が肯定的で、昨年度より 10p 程度向上した。学校行事などは、生徒の 90%が肯定的であり、担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいるの項目においても、71%と低いものの昨年度 39%より大きく改善された。 進路指導については、生徒 86%、保護者 68%が肯定的にとらえられている。保護者に関しては高校入学後のことや中学校段階からでも大学入試等の進路についての情報共有の要望があがっている。 学校全体として、特筆すべき点として、特色のある学校教育を実施しているという点においては、生徒 100%、保護者 99%と肯定的な評価を得ている。全体として、数値化すると生徒 90%、保護者 85%の満足度となっている。引き続き肯定的な回答を得られるよう特色ある教育活動を推進するとともに、進路情報や学校外のコミュニティとの関わりについて、一層の充実を図っていく必要がある。	第 1 回（7 /10） ○学校経営計画について ・中高一貫の強みとして高校生という中学生にとって身近なロールモデルがあるので、その点で個性を見つけ、可能性を伸ばす事の推進を良い形で展開してもらいたい。 ・生徒からの改善提案に対して、学校全体で即座に対応されている努力を評価している。生徒議会の組織を通してそれをより推進してもらいたい。 ・IB コース選択について、できるだけ早い時期から説明を行い、準備に向けて取り組む環境づくりが必要である。 第 2 回（12/11） ○開かれた学校について ・子どもとの対峙に疲れている保護者もあり、家庭以外の外との繋がりを求めている保護者もあるので、保護者が繋がれるような場づくりを検討してもらいたい。 ・保護者検討会の開催など保護者への歩み寄りがある点で評価できる。 ・地域企業や学校団体との協働の場を引き続き拡大してもらいたい。 第 3 回（3 /19） ○開かれた学校づくりについて ・地域との連携に関する取組みについては、地域からも提案できるように改善し、次年度の万博に関しても学校教育活動に活かせるよう取り組んでもらいたい。 ・学校の試行錯誤が良い結果を結んでいるので、これを推進する事とその結果を内外に広くアピールする事をお願いしたい。 ○IB 教育について ・IB 生を受け入れ大学側としては、IB 受験 1 期生の学生が 4 月から 4 年目に

府立水都国際中学校

	入るので、研究内容や進路に関しても評価を行っていきたい。 ○人材育成について ・英語教育・国際理解教育・課題探究型教育の3本柱を推進し、教員の指導力向上を引き続きお願いしたい。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5年度値]	自己評価
学力向上	(1) 授業改善に取り組み、更なる授業力向上に努める	(1) 授業アンケート結果等を参考に、自己・教科の振り返りを行い、授業改善に努める。	(1) 授業満足度調査において80%以上の肯定的な回答を獲得する。 [82.7%]	(1) 授業満足度は.94.1%で目標を達成。次年度も継続的にアンケートのフィードバックを行っていく。 (◎)
	(2) スケジュール管理等による授業外学習時間の向上	(2) 各教科の1週間における授業外学習時間の目標を示し、自己のスケジュールを管理させる。	(2) 授業外学習時間の中学校平均を平日1時間以上とする[54分] 休日2時間以上とする[1時間44分]	(2) 平日44分。休日1時間30分。目標を達成できておらず特に平日の学習時間が短い。自主学習を促すような課題（毎日学習時間を記録するなど）を設けられないか学年と協働で考えていく。(△)
	(3) めざすべき進路にあわせ、計画的に学力の定着と個性の伸長を図る	(3) 進路情報をホームルームにおいて生徒・保護者に発信する。	(3) 進路情報を生徒・保護者に年間3回発信する。[3回]	(3) 6回。直接伝える以外にも通信等で伝える手段があるため、学年通信などで進路情報を記載してもらえよう学年に働きかける。 (○)
IB教育を推進する	(1) 「総合的な学習の時間」で全生徒に対しクリエイティブラーニングを実施し、論理的思考力及び批判的思考力を育成する。	(1) 外部評価基準の課題発見テストのレベル強化を行う。特に記述試験において「意見構築力」が他の項目よりも弱くなっているため、各授業においてプレゼンテーション形式の課題だけでなく、その意見をより論理的に文字におこす練習と課題を行う。	(1) 外部評価基準の課題発見テスト標準レベルにおいて、中学卒業時に*B1レベルに達する生徒の割合を60%にする。[59%]	(1) 82%。入学試験において思考力表現力を測れている。その力をより向上させられるよう教科を越えて取り組んでいく。(◎)
	(2) 「IBの学習者像」の啓発を行う。	(2) 「IBの学習者像」の啓発をHRにて行う。	(2) ホームルームや授業内に「IBの学習者像」の発信を対象学年において年間3回行う。[3回]	(2) 2回。IB生企画の体験会において定期的に開催される仕組みができているものの中学生向きのものが少なかった。(△)
	(3) IB理解を深めるために高校1年次のIB説明会を充実させる。	(3) IB説明会を中学生対象に行う。	(3) IB説明会を中学生対象に年間2回行う。[2回]	(3) 1回。中3学年にIB説明会の機会は例年設けられているものの、その他の学年にも学年行事として組み込む必要がある。(△)

府立水都国際中学校

個性を見つ け、そのス キルを伸ば す	(1) キャリア教育を中学1年から段階的に進め、各自の個性、能力を認識させる機会を作る。 (2) 英語教育や国際理解教育の機会を充実し、英語への興味関心を高めると同時に、英語4技能5領域を総合的に学習し、発信力を向上させる。 (3) 英語以外の教科や課外活動等で知識や技能を向上させる。進路実現に向けた実績となりうる活動（検定、コンテスト参加、ボランティア活動）を促進する。 (4) 探究授業を通して、生徒各自の興味の方向性を理解させ、自身の意見を述べる態度を育成する。	(1) 中学1年：自己分析、中学2年：ゲストスピーカーによる職業講話、中学3年：大学進学に関する講話等、それぞれの発達段階に応じたキャリア教育を行う。 (2) 英文の多読プログラム展開、ランゲージセンター（昼休み・放課後の英語を使う時間）の設定を行い英語への興味関心を高める。 (3) 各教科会にてコンテスト等を1つ定め、英語弁論大会やWWL（ワールドワイドラーニング）の大会に出場する。そして各教科内での役割分担としてコンテスト担当教員を決め、コンテスト選定、紹介、生徒への奨励・選抜を行っていく。 (4) 探究授業の中で中間発表、成果発表を実施する。	(1) キャリア教育に関する取組みを年間2回行う。〔2回〕 (2) 以下の英語のCEFR目標を達成する。 中学1年：A1 100% 中学2年：A1 100%、A2 80% 中学3年：A2 100%、B1 30% 〔中学1年：A1 100% 中学2年：A1 100%、A2 30% 中学3年：A2 95%、B1 25% 〕 (3) 年1回以上の大会・コンテストに出場者を全生徒の80%にする。〔100%〕 (4) 生徒によるプレゼンテーション開催を年2回以上行う。〔2回〕	(1) 5回。引き続きCareer Dayでの講話を実施し、生徒のキャリア形成を促す。またCareer Day以外でも実施できないか探る。(◎) (2) 今年度の結果は以下の通りとなった。中学3年生のB1に到達した割合が倍増している。 中学1年：A1 100% 中学2年：A1 99%、A2 97% 中学3年：A2 96%、B1 54% (○) (3) 100%。現在継続的に参加・応募しているもの以外にも生徒全員が応募するコンクール等を増やす。(◎) (4) 2回。成果発表の機会だけでなく、他のチームに行っていることを共有する場としてもプレゼンテーションを活用する。(○)
生徒・教職員が安心して生活できる環境づくりを行う	(1) 生徒主体による「生徒の行動規範(Suito Model)」づくりを通じて社会の一員として通用する責任感・基礎的スキルの土台作りを行う。 (2) 個別に支援が必要な生徒への対応については、校内の特別支援委員会を中心に、きめ細やかな運用を行う。 (3) 生徒会／GAPS活動を活性化し、学校行事やボランティアなどの体験的活動を充実させ、「生きる力」を育む。 (4) 様々な取り組みの中で、人権意識を高める。	(1) Suito Modelの作成を行い、その後啓発のための取組みを生徒と共に行う。 (2) スペシャルニーズコミッティーの活動を通して、支援を要する生徒に対して「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成実施を行う。 (3) 体育祭、文化祭、GAPS活動、ボランティア活動において生徒が活動目標、内容を決定し、より主体的に活動を進める。 (4) LHRの特別授業を用い「いじめについて考える日」「YMCAの取り組むピンクシャツデー」「制服を通してLGBTQを考える」を実施する。	(1) Suito Modelの作成を行い、教員研修を2回行う。〔2回〕 (2) 支援を要する生徒に対して「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成実施率を100%にする。〔100%〕 (3) 「自主的な活動が活発である」の肯定率を90%にする。〔73.5%〕 (4) 人権意識を高める取り組みを年3回行う。〔3回〕	(1) 教員研修を2回行った。今後も継続的に、生徒が主体的に安全・安心な学校づくりに参画できるような体制を整えていく。(○) (2) 100%。支援を要する生徒に対して「個別の教育支援計画の作成実施率は100%であった。支援に関するさらなる組織構築をすすめていく。(○) (3) 94.2%。自主的な活動は活発になってきており、生徒会活動等をさらに活性化していく。(○) (4) 3回。教員の人権研修（いじめ）、ピンクシャツデー、人権についての特別授業（全学年）を行った。(○)
進路指導を強化する	(1) 学習到達度を定期的に測定しながら、自己実現に向けた具体的な支援を行う。 (2) 海外進学志向の促進を図る。	(1) チャレンジテスト、外部模試、思考力課題発見テスト、TOEFL Primary、TOEFL Jr.を実施し、学習到達度を測定し、支援を行う。 (2) 海外大学進学説明会、海外進学の個別面談、特別授業のグローバルデイにて海外の生活や勉強、働く事について授業を実施し、生徒の支援を行う。	(1) 教育産業が提供する外部評価基準（GTZ）においてCDゾーンを10%以下にする。〔6%〕 (2) 海外大学進学説明会を年間3回行い、海外大学進学をめざす生徒の支援を行う。〔3回〕	(1) 6%。学年が上がるにつれCDゾーンの割合が増えているため、上のゾーンにいる人が下がることなく、またCDゾーンの生徒が上がるよう夏期講習等の機会を活用する。(○) (2) 3回。現状十分な回数行えているため、今後も様々な国のガイダンスを行うことで、生徒の視野を広げる。(○)
校務整理と人材育成を図り、教育	(1) 役割と業務の明確化、責任分担により分かりやすく働きやすい職場環境づくりを進める。	(1) ア 役割に応じた主任主導のOJTを進める。 イ IBワークショップへの参加、探究型の授業の強化のためファシリテーション研修やコーチング研修に参加する。	(1) ア 校務に関する研修に10名の教師を参加させる。35名〔14名〕 イ 探究型の授業に関する研修に10名の教師を参加させる。〔9名〕	(1) ア 35名。主任だけでなく、サブリーダー的な教員の研修参加も促していく。(◎) イ 20名。IBワークショップ等を受講済の教員が多かったため。質的な強化を図るような研修参加も促していく。(○)

府立水都国際中学校

効果 の 高 い 学 校 運 営 を 行 う	(2) オンライン授業においてグル ープ討議や双方向の授業メソ ッドの充実を図る。 (3) 役割と業務の明確化、責任分 担により分かりやすく働きや すい職場環境づくりを進め る。	(2) ICT 研修を行い双方向授業やグループワーク等のオ ンライン授業力の向上を図る。 (3) 計画的な業務推進を行い、残業時間のコントロール を行う。	(2) 双方向授業やグループワーク等の ICT 研修を年2回行う。[2回] (3) 部活動の年間計画および時間管理 を行い、年3回(学期ごと)に評 価を行いコントロールする。(新 規)	(2) 1回。年度初めに毎年行うが、今 年度は、それ以外の開催ができな かった。すでに各教員の ICT スキ ルが向上していることもあり、ニ ーズの合ったグループ毎の研修が 必要である。(△) (3) 3回。部活動における生徒の出欠 状況などを把握するシステムを作 成し、学期ごとに評価・検証を行 った。(○)
開か れた 学校 づく りを 行う	(1) 地域や保護者の声を聞き取る 仕組み作りを行い、教育に反 映させる。 (2) 学校の特色ある教育活動につ いて幅広く情報発信すること により、中学生を含む地域の 方々に本校の理解を深めて もらう。	(1) 校長と保護者が語る会を行う。 その中で本校の課外活動に関 する方向を説明する。 (2) ア ネイティブ教員が各地域の学校へ、本校生徒が 小学校の探究クラスへ、本校教諭が大学への講義 等の出前授業を実施する。 イ 教育委員会と連携し、本校の特徴的な取組みに ついての教育研修と研修動画作成を実施する。	(1) 校長と保護者が語る会を1回行 う。[1回] (2) ア 教員による出前授業を年間3 回行う。[3回] イ 本校の特徴的な取組みについ ての教育研修を年間2回開催す る。[2回]	(1) 0回。保護者と語る会という設定 ではないが、保護者の会設立検討 会において、同目的を果たすよ うな集まりが4回持たれた。(○) (2) ア 2回。次年度は英語のみなら ず本校の特色ある科目である TOK などの授業を外部で発信してい く。(△) イ 4回。公開授業及び成果発表 会の他、特定の学校、地域に対 しての研修会も行った。(○)